

2023年9月10日(日)

老球の細道750号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トステイン・ロイブル」⑩

会津バスケットボール協会 室井 富仁

このツアーでドイツに行った時かどうか忘れてしまったが、トステイン氏に質問したことがあった。「なぜバスケットボールのコーチになったのか?」。その時まだドイツのバスケットボールレベルは世界的にマイナーだったのだが、彼は眼を輝かせながら次のように答えてくれた。

「東西ドイツが統一したことで、いつの日かアメリカを下して世界ナンバーワンのバスケットボール国になれる可能性が出て来た。その夢を必ず成し遂げたいからである」

今から約20年前の話である。

今日、2023年バスケットボールW杯男子決勝がテレビで放映される。決勝のカードはアメリカでもなくスペインでもない。ドイツ対セルビアである。ドイツはW杯(世界選手権)、五輪では史上初の決勝戦である。しかも準決勝で強敵米国を倒しての決勝である。

トステイン氏は現在チェコ代表の強化に携わっているが、現在躍進したドイツバスケットボールのこれまでの基礎を築いた。ドイツのレジェンド、ダーク・ノビツキーのファンダメンタル指導にも大きな影響を与えたと言われている。また日本のパリ五輪自力出場の原点は、数年前までトステイン氏の統括で行われた日本ユース世代の強化にあると思う。

トステイン氏が直接関わってはいないが、彼がコーチとして目標とした母国ドイツが世界ナンバーワンになることができるのか。今晚いよいよトスアップされる。ドイツもセルビアも「チームプレイ」で、インサイドもアウトサイドも完璧である。トステイン氏が長い間私たちに指導してきた「バスケットボール」が随所に見られる。今夜はちょっと夜更かしをしてウイスキーを飲みながら世界最高のバスケットボールを堪能したい。

【2004年 3月30日 夜】

ライブツヒ大学から帰って来た私たちは夕食を摂って、今ツアー最後の研修を受けた。トステイン氏率いる「ケムニッツ99」の練習見学である。練習トピックは「トランジションディフェンス」「マンツーマンチームディフェンス」「シューティング」「スクリメージ」の4つであった。

トランジションディフェンスの練習はゲーム形式で、人数を増やしながらティーチングポイントのレベルを上げていくトステイン氏得意のドリルであった。マンツーマンディフェンスは4:4シェルドリルが中心。「カットスロート」方式で、ルールを守れなかったチームは交代しながらポイントを争うドリルである。実戦的で私も大好きなドリル、オフense練習にも応用できる実に汎用的なドリルである。「シューティング」はチームで争う5人の「ペイサーズ」ドリルが行われ、常に競争、実戦的なコンセプトで行われた。「スクリメージ」は3分間のミニゲームを4回。1回ごとにチーム戦術を変えながら行われた。全てのドリルがライブ形式でアイデア満載。約2時間、あっという間に終了。大満足。〈続く〉